

〔玉城 勇議員 登壇〕

○1番 玉城 勇君 それでは皆さんがおっしゃったように、19期、初めての議会でございますので、また今期はゆっくりとして答弁を聞きながら再質問をしていきたいと思っております。できるだけ新人議員の見本になるように頑張っていきたいと思っております。それでは3点質問いたします。

1点目に、待機児童ゼロに向けての対策について問う。（1）今年度計画の認可保育園の建設によって待機児童の状況はどのようになるか。（2）南風原町4幼稚園の3歳児受け入れ計画は変更があるか。（3）認定こども園の設置及び認可保育園の増設の計画はどのように推移しているかお伺いします。

2点目に、青年の県外・国外研修の評価・計画を問う。（1）これまでの青年の県外・国外研修及び受入事業の評価はどのようになっているか。（2）今後の計画はどのように考えているか。

3点目、高齢者福祉と外出推進に向けての対策について伺います。（1）高齢者の福祉と健康維持と管理のため、町立の老健施設及び高齢者住宅の建設計画ができないか。

（2）高齢者の外出を手助けするために、特に役場、病院、買い物等に地域コミュニティバスの運行が以前から望まれているが、どのように思いますか。以上、お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の待機児童ゼロに向けての対策について問う。

（1）にお答えいたします。町子ども・子育て支援事業計画に沿って、平成30年度は新規で認可保育園2カ所を整備し、平成32年4月の開園を目指します。この2園で180名の定員増となります。

（3）についてお答えします。認定こども園につきましては、開邦幼稚園が移行を希望しておりますので、平成31年4月開園に向けて事務を進めているところです。認可保育園の増設については、町子ども・子育て支援事業計画に沿って、平成28年によなほ保育園、平成29年度にやまがわ保育園とももの木保育園、平成30年度にやまびこ保育園が開園しております。現在は、平成32年4月開園を目指して新設2園の整備を進めているところです。

質問事項3点目の高齢者福祉と外出推進に向けての対策についての（1）にお答えします。町内には既に医療法人の老健施設や民間事業所の高齢者住宅が開設しており、町立の老健施設及び高齢者住宅の計画についてはありません。（2）についてお答えします。高齢者の外出支援については、病院受診や買い物等の支援も含めて調査、検討を進めているところであります。以上です。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項1番目の（2）についてお答えいたします。現在、町内にあるプロジェクトチーム、その中で検討を進めているところでございます。続きまして、質問事項の2番目、青年の県外・国外研修の評価・計画の（1）でございます。海外移住者子弟研修生受入事業でこれまで61人の研修生を受け入れしました。移民の歴史はもちろん、相互の文化と歴史を学習し、帰国後は自国の研修生、仲間と連携し、移民の文化、歴史交流を推進するためにパイプ役として活躍しております。それから青年海外派遣事業については、南米3カ国に2回4人、ハワイに2回4人、合計8人の青年を派遣しております。町人会や海外移住者子弟研修生OBのお世話になりながら、移民の歴史や異文化を学び、交流を深め、現在は海外移住者子弟研修生の来庁時のサポート役として活動しており、その以上のことが評価できると思います。続きまして、今後の計画でございますが、海外移住者子弟研修生受け入れ事業を引き続き、南米、ハワイからの研修生受け入れを行ってまいります。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それでは再質問を行いたいと思います。まず、先ほど金城好春議員からも質問がありましたけれども、194名が待機児童であるということでもありますけれども、平成31年が見込める開園がないわけでもありますので、平成31年も200名近い、あるいは超えるかもしれませんけれども、それだけの待機児童が発生するわけです。ですから平成30年が194名、そして31年もそのまま推移していく。1年待って、平成32年の4月ということになりますけれども、その間の取り組みはどのように考えているのか。どのように待機児童を減らしているのか。皆さんの計画の中には、それは平成31年にはどのように計画されているのか、それをお答え願いたいと思います。

10月11日（第5号）一般質問

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えいたします。90人定員の2園の整備については、開園平成32年4月という予定で取り組んでいるわけですが、もう1園、現計画では90名規模をもう1園、3園と予定はしております。ただ、先ほども述べましたとおり、90名定員の同じような保育園がいいのか。それとも待機児童の多いゼロ、1、2歳児に特化した小規模保育所を2園とか3園とか、そういう形がいいのか。今それを、まさに現時点で検討しているところをございまして、そういった部分で計画の見直しをして、小規模、あるいは分園等であればすぐ公募をかけて、平成31年度中の開園に向けていきたいと。それから各認可、現在ある認可保育園のほうに協力依頼をお願いしているところをございまして、これを各園で、独自で、現在の園の状況の中で、とれだけ定員をふやしていけるのかという部分、そのほうも確認をとりながら協力をお願いしているところをございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 まず定数を弾力化で検討できないかというのは、これは3園開設する予定が、現在2園でおさまっていると。以前から3園目については、県の予算がついたらあと1園ふやしていきたいということでもありますので、それは置いておいて、まず平成30年度で194名の待機がいる。31年も同じように推移していくわけです。この2年間の皆さんの取り組みはどのように考えているのか。その子供たちを、先ほどの弾力で1.04とおっしゃいましたが、まだ1.1も入っていない。これでもう少し弾力運用ができないのか、その待機児童をどのように皆さんは受け入れをしようとしているのか。これについても一度、答弁をお願いします。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 先ほどの答弁のとおりでございます。我々はできるだけそういう取り組みをして、平成31年度にも定員の増を図りたいということをございます。現時点で強力依頼して…、1カ所やまがわ保育園においては既に増員増ができるという返答、その取り組みを進めておりまして…、やまがわ保育園については定員増を図ってもらっております。引き続き、園のほうには協力依頼して、定員増も図りながら、先ほど申し上げましたとおり小規模保育園とか分園とか、そういった部分も念頭に取り組みをして、平成31年度中にも定員増はできるように取り組んでいく、そういう方針でございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 再度確認です。平成31年度中というのは、31年度に定員増を図っていきたいということでございます。平成31年度中に皆さんの検討をされて、32年度から定員増をするのか、どちらのほうが正しいですか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 平成31年度中でございます。31年度中に定員の増を実現させていきたいというふうにございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 要するに平成31年の4月以降、あるいは4月入園が可能であると。それから随時入園の受け入れをしていく。その平成31年度中で何名ぐらいの定数増が可能でありますか。今検討されている数字でよろしいです。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 小規模の場合ですと、定員は19人でございますから、3園でも60人と。ただ先ほど申し上げましたように、ゼロ、1、2歳児のほうに待機児童は多いわけですから、その園全体と町全体の年齢のバランスと申しますか、あるいは小規模保育園ですと連携施設、次3歳児以降の受け入れ先とかも検討しないといけませんので、先ほども答弁しましたように、そういったあたりから次の計画の見直しを、数の量の見込みを算出しているところをございまして、しっかりそのあたりは待機児童のゼロ、1、2の部分に定員増が図れるような形で取り組んでいきたいと考えています。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それではゼロ、1、2歳の児童をできるだけ減らしていくと、受け入れしていくということになりますと、保育士の数の増について、保育園側との調整とか、あるいは相談等はどのようになっていますか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 保育士の確保に関しましては、我々行政としてやる部分に関しましては、町は3,000円の給与補助をやりながら、次の手だてとしては一時金の検討も必要かなと、そういう部分はありますが、園との相談と申しますか、これは各法人保育園、それぞれの園の運営の方針がありますので、そこで保育士の処遇等はそれぞれの園が決め

10月11日（第5号）一般質問

ていくことをございますので、その辺はまた園のほうでしっかり、保育士の確保は取り組んでもらいたいと。町としては公立の保育園が1園ございますが、その保育士の確保の部分に関しては、近隣市町村の時給等を参考に、できるだけ本町も保育士が働きたくなるような、そういった処遇の方向に持っていきたいという部分と、あと認可保育園において毎年オープン保育という形で保育園を開放して、保育所を希望している、今学校で学んでいる生徒たちに自由に見ていただいて、どの保育園を希望するかとか、そういった部分の取り組みをしてもらっていますので、引き続きその取り組みも支援しながら保育士確保に取り組んでいきたいと考えております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それではただいまの件について、保育士の確保については、どの園も大変苦労していると思うんです。ですから待機児童を受け入れをしてくれというのと、保育士の確保を行政も一緒にやらないと大変厳しいところがあると思うんです。ですから行政の保育士の免許を持っている状況を把握しているのか。以前やっていたけれども、今現在、離職をしていると、家にいらっしゃると。あるいは他の職種についているという調査をされて、検討されて、皆さんがこういう方がいらっしゃるよというのを園側にも提供するぐらいやらないと、この保育士の確保というのは難しいと思うんですが、その辺は行政のほうでやっておりますか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 町のほうでそういう調査はできない状況です。どなたが資格を持っているとか。ただ、県のほうには県で保育士の試験はやりますので、免許を持っている方の把握はできているものだと。その方、免許を持っている方がどこで働いているのか、別の保育以外の仕事をしているのか、そういった情報はございませんし、この保育士不足は県内みんなが抱えている課題でございまして、これだけマスコミでもいろいろ保育士不足というふうに言われているわけですから、そもそもその資格を持っていらっしゃる方は、そういった保育士が足りないという状況は重々認識していることだと思います。あとはその方々がいかんして保育の職に、また再度復帰するのか、こうして保育の職についてもらうかという部分では、何かしらのインセンティブが必要になってくるかと思いますが、我々がやれる役割としては、そういった部分を検討していくと。何度も申し上げましたとおり、本町としてはそういったインセンティブの部分では、これまでも給与補助を続けてきているわけですから、今度はそれにかかわる何かが必要なのかとか、そういった部分を検討していきたいと思っております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 行政として、あと一步、前に入るような行動をしていかないと、保育所側とのこういう協議も是非やっていただきたいと。南風原町は、これからも児童がふえていくという予測ではありますので、毎年毎年保育園を増設しても間に合わない、そういう状況があると思います。ですから、いずれはゼロになるかもしれない。あるいは逆に子供が定数割れを起こす可能性も出てくると思いますけれども、今現在、とるべき行動というのは早目に行動していただいて、できるだけ早目に待機児童をゼロにしなければいけないという状況にございます。それと今後は引き続き、保育に欠ける子供だけじゃなくて、家にいる子供たち、両親のどちらかが仕事をしていないという子供たちも受け入れられる行政じゃないといけないと思うんです。そこにも向けていかないといけない状況にございますので、ひとつひとつ早目にクリアしないといけない。それを今後は検討して、早急に取り組んでいただきたいと思っております。町長、前町長もそういう子供たちも全て平等に受け入れるべきだという答弁もいただいておりますので、町長もそのようなお考えなのかお聞かせ願いたいと思っております。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。前町長もそういった方針でやってきておりますので、私としましてもそういうことを引き継いでいきたいと思っておりますけれども、現実的に、やっぱり計画的に進めていかないといけないと思っておりますので、早急というお気持ちもわかるんですけれども、やはりそれなりの時間をいただきたいと思っております。前町長の方針はそのまま継続していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 この質問は最後にしますけれども、認可保育園や公立の保育所で受け入れできない子供たちが認可外に行っておりますので、その子供たちも認可園同様にそれなりの受け入れをしないといけないと、処遇もやらないといけない。ですから認可外に対しての助成についても是非検討していただきたいと、そのように要請したいと思いま

す。それでは次に移ります。

南風原町の4園の3歳児の受け入れについてでございますが、現在、プロジェクトチームで検討されているということでございますけれども、どのような方向性に向かっていこうとしているのか、3歳児をこれから受け入れないのか、あるいは受け入れするために検討を進めているのか、お答え願いたいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 3歳児の受け入れについては、近隣の人口増の大きい豊見城市、それから那覇市の状況もあわせていろいろ検討させていただいております。しかしながら、先ほどからのご質問で指摘がありますように、南風原町の人口増、子供たちの増のほう、我々が想定した以上に人口増もあることと、それから教育施設の幼稚園のほうで増設のための設備、施設が足りないということもあわせて、再度、こちらのほうで検討を重ねています。現在は、公立幼稚園の公設公営、それから公設民営の、こども園を視野に入れながら、総合的な見地から検討していきたいという状況であります。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 以前から認定こども園については要望しておりますけれども、この件については、待機児童を減らすために4歳児も受け入れしたと思うんです。3歳児も受け入れをすれば多分、待機児童がゼロになった可能性もあります。しかし、施設の関係でこれはもう大変厳しい状況だと思います。ですから、これから幼稚園の拡張というのは敷地的にも、予算的にも厳しいと思いますけれども、具体的に言いますと、本町においては3歳児受け入れについては今後検討しないで、今の保育所の定員増、認定こども園の設置のほうが一番本町にとってはベストじゃないかと思っておりますけれども、いかがですか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 待機児童解消は当然でございます。幼児教育についても非常に重要性が叫ばれておりますので、今議員がおっしゃったように、現状として施設の、人的にも非常に厳しい状態である。先ほどの答弁の内容からもそうですが、そういったことを含めると、やはり公設公営、公設民営、それから法人なんですけれども、さまざまな角度から、南風原町に合った、持続可能な施策を考えていく必要があると。いわゆる方向性はいろんな意味から検討して、あとは結論を出して対応していくということになると思っております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 最後にしますけれども、やはり公設というのは予算がかかる。ですから法人に移行していくような、そういう動きが各地で起きていますので、それも調査されて、本町の方向性というのは決めたほうが良いと思いますので、今後、その辺を検討させていただきたいと思っております。

それでは(3)の、ただいまも話をしておりますけれども、認定こども園の設置についてでございます。答弁によりますと、現在、開邦幼稚園が設置を進めているということでございますけれども、平成31年4月開園となると、今の状況からすると可能なかどうか。これについてお答え願いたいと思います。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 県のほうとも、来年の4月開園に向けて事務を進めておりますので、来年4月開園となります。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 この来年4月開園というのは確約できていることになっておりますか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 部長から答弁があったように、現在、順調に事務を進めておりまして、11月に県のほうに、園のほうから認定申請の提出をします、11月に。それを経まして、県が調査をしますので、日程どおりに行きますと、1月下旬に県のほうで子ども・子育て会議が開催されますので、そこで承認されて3月に認定がおりるというスケジュールで進めていますので、4月開園に向けて順調ということでございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それを確認とれているのであればいいと思います。是非そのように、計画どおりできるように進めていただきたいと思います。それとあわせて、今後もこの開邦幼稚園が開園した後も、認定こども園の第2の設置についても、是非強力に取り組んでいただきたいと思います。先ほども町長から答弁をいただいたように、認可園に入所できない子供たちもまだまだ大勢おります。その子供たちも受け入れることができるのが認定こども

10月11日（第5号）一般質問

も園ですので、その認定こども園の設置については、行政としても是非進めていただきたいと思いますので、これについての取り組みをお願いしたいと思います。いかがでしょうか、課長。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 新たな認定こども園の設置ということに関しましては、その設置を希望する法人等が手を挙げてくるというか、南風原町内につくりたいという相談等があればしっかりと、我々もその相談、支援、取り組みをしていきたいと思えます。

〔玉城 勇議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時44分）

再開（午後1時44分）

○議長 知念富信君 再開します。1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 本当に本町は、平成28年から保育園がどんどん毎年ふえております。平成29年度もふえましたし、30年度もできました。31年度もまた新たに2園が開園すると。そういうふうには本当に素晴らしい取り組みをしていると思えます。それでも間に合わないということでもありますので、子供たちは平等でありますので、どの子も大勢の中で保育あるいは教育を受けたほうが、子供たちにもいろんな面で免疫がつかますので、本町の子供たちがそういう素晴らしい環境の中で、全ての子供が保育あるいは教育を受けられるように、今後も取り組んでいただきたいと思います。この件を以上で終わります。

2点目の青年の県外・国外研修についてお伺いします。これまで海外の移住者の子弟の受け入れを61名されたと、大変素晴らしい事業だと思えます。先日もお一人受け入れされております。本当に母国に帰って、素晴らしい活動をしていると思えます。そこで本町から、このような、今度海外に派遣する事業として青年海外派遣事業がスタートしました。今、南米とハワイで8名派遣されておりますけれども、まだまだ少ない数字だと思えます。今現在、この事業についてどのようになっているのか、受け入れは順調だと思えます。県内各市町村とも順調に新聞報道もされておりますけれども、本町からの派遣は、8名の後はどういうふうに移しているのか、これをお答えをお願いします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 今現在は、8名の派遣以降は休止の状態となっております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 これは何年まで派遣して、何年から休止になっておりますか。

○議長 知念富信君 生涯学習文化課長。

○生涯学習文化課長 神里 智君 平成25年から実施いたしまして、28年度まで4年間でございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 平成29年度はやっていないんですね。ということは…、5年間は…。平成29年度は、もう一度。

○議長 知念富信君 生涯学習文化課長。

○生涯学習文化課長 神里 智君 平成25年度から、25、26、27、28年度の4年間です。

〔玉城 勇議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時48分）

再開（午後1時48分）

○議長 知念富信君 再開します。1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 どうも失礼しました、勘違いしておりました。それで、それぞれの2回というのは、1年ごしの南米とハワイ、この合計の4年。現在、平成29年は休止、30年、今年度ですけれども。今年度以降についての復活といいますか、再開というのはどのように考えますか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 今現在、予算としては、実行の予算は持っておりませんが、今後、いろいろと方策をあわせて検討していきたいと考えています。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 私も受け入れと派遣については、非常に強力で提案をした一人でありまして、この事業が行われた後の青年たち、あるいは壮年の方々は、本町に対する愛着、あるいは事業に対する協力が変わると思うんです。ですからこういう青年、壮年を育てることによって将来の本町が非常にいいまちに変わってくると。彼らがこれから来

10月11日（第5号）一般質問

る子弟の皆さんの受け入れ先にもなるんです。ですから南風原町から南米あるいはアメリカに移住された皆さんとの交流が、本当にその人にとっての大変すばらしい宝物になりま
すので、この事業については是非再開をしていただいで、多くの若者が本町のために活動
できるような、すばらしい知識を得ることができるよう、是非再開をお願いしたいと思
います。平成30年度は厳しいかもしれませんが、平成31年度について、是非思いを聞いて
みたいと思いますけれども、教育長どういうふうに思いますか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 受け入れは今も継続して行っていますが、派遣について、実は子
供たちもカナダレスブリッジ市とホノルルに隔年で派遣をしております。この子供たちに
ついてはしっかりと受け入れも対応していただいているんですが、実は青年の派遣につい
ては、我々は向こうからの受け入れを、行政がしっかりと行っているんですが、向こうは
どうしても人だよりになっていて、その受け入れ先が少し難渋しているというのも事実で
ございます。それも含めまして、子供たちはしっかりとこれからも継続なんです、青年
についてはいろいろな方法も含めて、今後の復活も含めて検討させていただきたいとい
うことでございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 向こうとの、相手側の受け入れを探すのが難しいということであり
ますけれども、本町も町人会がありますので、あるいはまたこれまで受け入れした皆さん
を通じてでも、やはりこの辺はルートをつくって受け入れ先を探して、できるだけ派遣で
きるようにやっていただきたいと思ひます。私がブラジルへ行ったときも、親戚ではない
んですけれども、同じ宮城の出身ということで3週間もいることができましたので、多
分、こちらから行くとその地域の皆さん、あるいはこれまで受け入れした60名の皆さんの
過程等を含めると、調査できる範囲は非常に広がっていくと思うんです。その辺を是非こ
れからも継続できるように取り組んでいただきたいと思ひます。ひとつよろしく願ひし
ます。

(2)も同じようなことになりましたが、海外移住子弟研修の受け入れは、これまで同様
引き続き、南米、ハワイと研修の受け入れをしておりますが、引き続きというのが、やは
り青年の派遣事業がちょっと含まれていないと感じましたので、もう一度確認をします。
やはり派遣事業については、他の町村でもやっております。ですからその辺の情報も入手
されて、引き継ぐ理由というのに大きなプラス要因があると思ひますので、その情報を是
非入手されて、本町が派遣できるように取り組みをお願いしたいと思ひますので、(2)
は是非とも取り組んでいただきたいと要望したいと思ひます。

質問3点目、高齢者の福祉と外出推進に向けて。これも前回も質問しておりますけれど
も、先ほど本町では老健施設、あるいは高齢者住宅の建設計画はないということござい
ましたけれども、今現在、老健施設に入所できない方々がいっぱいいるんです。待機なん
ですね。それからその家族が面倒見ていると。大体願ひする理由としては、認知が入っ
ているとか、家族で見ることが大変難しいという皆さんの施設入所をお願いしたいとい
うことが多いんですけれども、今現在、待機が非常に多いものですから、これについてど
んようにお考えなのか、その辺を把握しているかどうかを含めて答弁をお願いしたいと思
ひます。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 特別養護老人ホームの待機は把握しておりますが、老健施設に
関してはどれぐらい待機がいるのか、その辺は把握していないというか、できない状況で
す。ただ、我々としては在宅で介護をされる、あるいはデイサービス等を使って通所を活
用しながら自宅で過ごされる。そういった方々、この町にある地域包括支援センターが中
心になって、しっかりと介護予防事業も取り入れながら支援していくと。できるだけ包括的
な支援に取り組んで、我々としては在宅での生活を支援していくと。しかしどうしても医
療的な部分が必要になってくる方は老健に行かれる方もいらっしゃいますし、あるいはそ
ういう部分でない場合は、やはり家で生活が困難という状況の中で見る方もいない、家の
確保も困難となってくると、また特別養護老人ホームとかとなっていくと思ひますので、
しっかりとした支援、そういった部分の充実とかということに取り組んでいきたいと考
えています。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 今一番懸念されているのが自分の自宅で介護ができない、あるいは
ケアが必要になってくる、場合によっては病院での治療も必要になってくる、そういう皆
さんが介護つき老人ホームのような、小規模の施設に願ひするわけですけれども、そう

10月11日（第5号）一般質問

いう施設がほぼ満杯であきがないという状況で、自分の自宅で介護できるかとなると大変厳しい現実があるわけです。そういう方々が仮に入所しても、老人ホームの入所は大体10万円から12万円ぐらいかかるんです。プラス介護料金が3から4から5で、1割といっても大きな金額になるわけです。ですから毎月十二、三万円の負担金が出るわけです。そこで国民年金に入っている皆さんが月6万円しかない。そういう方をその施設に入れる場合に、その家族が負担しなければいけないわけです。家族といっても子供1人では差額の6万円から8万円を見ることはできない。そういう状況にあるんですが、本町はそれを把握しておりますか。ですからそういう立派な施設に入所できなくても、本町がある程度面倒を見られるような、そういう施設ができないのかということですが、まず把握されているかどうか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 社協においても在宅介護支援センターというのがございます。庁舎内にも地域包括支援センターというのがございます。社協にはCSWという形で地域に出向いて、いろいろ支援が必要な方の掘り起こし、あるいは相談支援に取り組んでいるわけですが、そういった状況の中で議員がおっしゃる所得が厳しい方で在宅介護をされている方も当然いらっしゃるというのは、我々も承知をしております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それをわかっていらっしゃるのであれば、それを本町が行政としてその施設を確保して、そこで少なくとも老人ホームですから10万、12万円のお金が出ますけれども、これを半額で入所できるようにすれば、介護のほうでしっかりとケアできると思いますけれども、それはどのようにお考えになりますか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 施設入所が必要な方がそういった経済的事情によって入れないという方の部分に関しては、また利用できる幾つかの制度もあると思います。当然所得が低い方がきちんと介護保険、あるいは老人福祉制度等を活用すればそれなりの負担になります。議員がおっしゃいますのは、民間の私立の老人ホーム、そういった件だと思いますが、そこに行かざるを得ない方も中にはいるだろうと。ただ、町としましては、先ほどから申しておりますように、社協と行政が一体となって在宅での療養生活を支援していきながら取り組んでいきたい。公設のそういった施設ということ、そういった部分を維持、運営していくには相当の費用が伴ってまいりますので、まず一番、財源的に大変厳しい部分になるだろうというふうに思います。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 実は、部長がよくご存じだと思いますけれども、今実際に、低額料金で入所できる公的施設があいているのかどうか、申し込みをしたらできるのかどうか、その辺の現実的なものはどういうふうに把握されていますか。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 特別養護老人ホームの入所待ちという方が、これは平成28年度の数値しかありませんけれども、南風原町の方では5人いらっしゃる。入所あきを待っている人たちの中では、老健施設とかあるいはその他の介護施設とか、そういったところに介護の認定を受けて入っていくわけですから、そういった場合、当然所得によってしか個人の負担金というのは発生してきませんので、所得に応じた一部負担金ということ。ですから議員がおっしゃっていた国民年金だけの収入となってきますと、かなり低い層の階層になってくると思いますので、それなりの負担というふうな形になります。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 私が提案しているのは、低所得層の皆さんがどうすればその施設に入れるかです。入れなければ行政としての責任もありますので、その辺はどのように紹介していくのか。あるいはニーズ先を確保していくのか、それが現実の問題なんです。これについてはどういうふうに対応なさっているかです。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 これも先ほどからの答弁の繰り返しになりますが、我々としては在宅での生活を支援していくという取り組みを充実させながら、施設のあきが出ればそこに入所してもらおうとか、そういう取り組みで対応していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 本当に繰り返しになりますが、在宅で介護することが難しいというところをどういうふうにご手助けできるかです。それができているのであればいいんです。まだ、あとしばらくは大丈夫という状況にあります。しかし、もう自分の家庭で世

10月11日（第5号）一般質問

話をするのができないという皆さんをどのようにして施設に入所させていくのかです。これを是非検討していただきたいということでございます。先ほどの町立の施設については、やはり住みなれた地域で、自分らしく暮らせる、環境をつくってあげるのが大事だと思うんです。できるだけ認知が進まないうちに、そういう取り組みが必要かなと思いますので、それにあわせて是非検討をお願いしたいと思います。それでは、最後のほうに移ります。

まだ活動できる高齢者の皆さん、移動する乗り物等があれば役場にも来ることができるし、病院に行くのもできる、買い物もできると、そういう皆さんを元気に活動できるように、こういう環境をつくっていくのも行政だと思いますので、行政がそういう皆さんをできるだけ外に出て活動できるようにしてあげるのが、やはり行政として、コミュニティバスとか、社協のほうでもやっておりますけれども、ちむぐくる館への送迎、あるいは企業と提携してのスィミング等をやっておりますが、こういうお年寄りの皆さんが自由に買物をしたり、病院へ行ったり、あるいは役場に来たり、農協に行ったりできるような、地域を回るコミュニティバスが必要だと思うんです。名称は別として、今南城市でもやっておりますし、豊見城市のほうにもございます。そういったものが多くの議員から提案されておりますけれども、そろそろ南風原町もそれを検討する時期に来ているんじゃないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 コミュニティバス事業を実施している市町村においては、非常に財政負担が大きいと聞いております。またそのことから費用対効果も少ないということとなっております。本町においては、先ほどから急速な人口増があり、財政需要も非常に大きくなっていきます。そのことから現段階においてはコミュニティバス事業の導入は非常に厳しいものと考えております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 部長、これは費用対効果じゃないんです。費用対効果を考えればすぐく効果があるんです。お年寄りを元気に行動させる、これが一番です。費用がかかっても、これは福祉の事業として捉えて、行政としてやるべきなんです。考え方を変えていかないと、お金がかかるからやりませんでは、町民に対して、あるいは高齢者に対して非常に失礼だと思います。できるだけ行動してくださいと、これを考えるべきだと思いますが、いかがですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 我々は、先ほど答えたのは町民全体という観点でのコミュニティバスということで答弁しております。高齢者、福祉面においては民生部からの答弁があると思います。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 議員おっしゃいますように、いわゆる買い物弱者とか、最近そういった部分でクローズアップされておりますし、高齢者の外出支援という部分は行政としてしっかり取り組んでいかないといけないと我々も認識しております。そういう中で、国を挙げて、先ほど来、議員は行政が、行政がとありますが、もちろんそれはまず第一義的に我々はしっかり取り組んでまいります。我がことまるごとと、地域共生社会という形で、やはり地域でもしっかり支えていこう、共助の精神で支えていこうという考え方も進んでおります。そういった中において、我々は地域福祉推進計画というのを、第2次計画を今策定中でございますが、そういった中で、そこの中でも課題として高齢者の外出支援という部分を上げております。そこの中でも地域の共助による高齢者の外出支援という部分も検討しております。一部地域においては、既にそういう取り組みもなされているところもありますが、我々は例えばこの共助による外出支援ということであれば、そこに対して行政がどういう支援ができるのかとか、それを今検討していると。あともう一つは、県内の幾つかの市とかで高齢者の外出支援、本町も社協に委託してやっているわけですが、似たようなところもございます。それをもう一つステップを上げて、タクシー協会に委託してのタクシーチケットによる外出支援をやっている市もございます。今、そういうところの情報をいろいろ収集して、そういった形での外出支援を行政がしっかり取り組むべきだと我々も思っておりますので、今そういった部分を検討しているところでございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 部長、今現在、全てのお年寄り、町民が自助努力やっているんですよ。地域もミニデイサービスのようにお互いが助け合いながら頑張っているんですよ。

10月11日（第5号）一般質問

は行政が頑張らないと、これは先ほど高齢者の話もやりました。このコミュニティバスが通れば、高齢者はもちろん町民も利用できますから、是非、総務も民生も一緒になって取り組むべきだと思いますけれども、皆さんの考え、方向性というのはどういうふうに考えておりますか。もしできたら町長からも答弁をお願いしたいと思います。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 答えいたします。議員さんおっしゃるとおり、やはり住みなれた地域で生活をしていただくというのは基本でございますけれども、民生部長からもありましたように、あるいはまた総務部長からもありましたように、やはり現実的に厳しい財政需要の中で事業の優先順位、それもまたいろいろと検討しながら進めていかないといけないと思っておりますので、そのあたりも町の事業全体を見渡して優先順位がどうなるかということも考えながら、今議員ご質問の件に関しましては対応していきたいと思っております。以上です。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 最後に、是非いい方向に検討してください。終わります。